

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270103437		
法人名	(有)なぎさ		
事業所名	グループホームなぎさ 1F		
所在地	長崎市かき道6丁目3-5		
自己評価作成日	平成27年2月20日	評価結果市町村受理日	平成27年5月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成27年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念の癒しの心で接しております。皆さんが、穏やかにすごせるような雰囲気作りを心掛けるようにしています。又外出・外食の際は職員全員で楽しく過ごせるよう計画を立てて実行しております。リハビリや痛みの軽減にはホットパックなどと気を配っております。又個人にあった昇降運動等を下肢筋力低下防止に取り組んだり、残存機能を生かせる日常生活の活動にも努めています。(食事の下ごしらえ、体操レクレーション)月1回陶芸教室に希望の利用者様をお連れしたり、ドライブに行ったり楽しくすごしております

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

かつて海水浴場で賑わった地域に位置し、事業所名「なぎさ」は経営者の思いで命名している。事業所は家族が参加しやすい沢山の行事や話し易い雰囲気作りを心掛け、事業所と本人・家族、家族同士の交流を深めている。運営推進委員会への家族の参加は5人から8人と多く、毎回活発な意見交換を行っている。又、職員が考えた介護方針について家族の意見を聞き再度職員で話し合い、抽象的だった方針を「過去の生活歴・現在の思いを知りケアを実践していく」と具体的な文言に修正している。重度化した場合の指針も家族の意見を取り入れたり、利用者の要望で温泉へ行くなど家族や利用者の意見の反映が多くある。不穏の強い利用者を受入れ、原因と対策を何度も話し合い、寄り添う支援を通して落ち着いた事例があり、職員のチームワークと高いスキルに裏付けされた支援が随所に見られる。質の高い支援が期待出来る事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は「いやし」理念と経営方針は毎月2回、職員会議の際職員全員で読み上げ常に頭に置き実践に繋げています	理念と経営方針を玄関に掲示し、月2回の職員会議で読み上げ意識付けしている。理念である癒しの具現化に向けて職員と家族で作上げたケア理念がある。不穏の利用者に得意の踊りの場を設け、他の利用者とも交流するなど、理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、ガス祭り、ペーロン大会のご利用者様の参加(ペーロン大会は招待されての見学) 毎年、小学生が訪問に来てくれます。中学生より車いすを毎年寄贈	自治会に加入している。地域の神社に初詣に出掛け、供物のお裾分けがある。地域の敬老会に利用者と参加し、職員が出し物を披露したり、地域のガス会社の祭りで介護用品の紹介や介護相談を受けている。又、小学生の訪問や中学生の職場体験を受け入れるなど、地域交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の感謝祭、ガス祭りにてなぎさコーナーを設け、介護相談やホームの暮らしの様子などをお伝えしています。介護用品の説明などもしています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	プロジェクターにてのご利用者様の写真にて様子を伝えたり、ビデオにてお伝えしています。ご家族の意見をお聞きし制服に名前をつける事、月1回メッセージカードにて様子をお伝えしています	2ヶ月毎に規程のメンバーで開催している。家族の希望する曜日や行事後に設定する工夫で家族の参加が多い。利用者の近況や研修報告や意見交換があり、家族も活発に発言し、ケア理念や看取り指針の作成など反映している。ただし、議事録の記載や配布に課題がある。	意見交換の内容がわかるような記載方法の工夫や議事録を欠席の委員、家族全員へ配布することが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にてすこやか支援課の方に参加していただいております	事業所は、地域包括支援センターが主催する地域の独居高齢者対象の集まりで音楽療法を指導している。又、市主催の研修会に参加したり、介護相談員の受入れを行っている。市職員が勉強の為、見学に訪れるなど協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行っておりません。日頃より身体拘束のないケアを心がけております。又御家族からの要望もありましたが、市役所の方へ相談し結果報告し拘束のない方向へ納得していただきました	身体拘束委員会があり、職員は身体拘束廃止推進委員研修を受講している。意識調査のため職員アンケートを取り、内部研修や報道記事など周知を図っている。スピーチロックは言い換える言葉を検討し、利用者が外へ出た時は一緒に付き添い見守るなど、拘束のない支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ご家族の要望・本人さんの意向を大切に支援しております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、知識を増し、地域の人・利用者様御家族へのアドバイスをしております		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定・変更があればその都度説明し理解してもらう		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回運営推進会議を開き外部者の意見家族からの意見交換ができる	内部、外部の苦情処理・相談窓口は、第三者委員を含め文書化し契約時に家族へ説明している。意見箱を設置し利用者から投函があり、節電の提案を反映している。家族は面会時の他、事業所の行事にはほとんど参加し、職員や他家族とは話しやすい関係がある。温泉ヘドライブなど希望を反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回の職員会議よりの意見交換を大切にしている	職員は月2回の職員会議や業務の中で、意見や要望を出している。又、年2回の代表との個人面談時には職員自身の目標や到達度の報告、相談など話している。管理者は勤務や長期休暇など職員の希望に応じ、働き易い職場作りに努めている。手作りのレクリエーション備品やクリスマスプレゼントなどの提案を反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に数回職員会議にて、外部より講師を招き勉強会を行ったり、職員一人一人にあった研修に日勤扱いにし、行く機会を設けております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に数回職員会議にて、外部より講師を招き勉強会を行ったり、職員一人一人にあった研修に日勤扱いにし、行く機会を設けております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣のグループホームで地区会を開催したり、又同業者同士の行事に招待したり参加したりと交流を図っております。現在4施設でのご利用者・職員の交流をしております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確認するための関係づくりに努めている	入所前に事前に面接し、御本人さんに要望を聞いたり、伝える事が難しい方は何をしたいのか考え、昔の情報のなどを御家族に聞きサービスに活かしています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望を聞くように心がけております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	リハビリをしていただきたいとの要望がある方は、病院にてのリハビリを行っております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に洗濯ものを干したり、畳んだり、又入浴準備、シーツ交換も職員と一緒にしております。利用者様がお茶の葉を詰めたり時におやつも一緒に作っております。なるべくご本人さんに役割をもっていただいています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームに足を運んでいただく機会を作る為に、日用品や衣類など必要な時は連絡し持ってきていただいています。行事の参加にも働きかけたり、外出時にも声かけております。面会時は、様子をお伝えしています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人の面会に来られたり、手紙や年賀状など出す機会を作っております	職員は利用開始時の聞き取りや利用者のちょっとした言葉を書き留め、生活歴を把握している。家族の他、昔の隣人や知人の面会がある。絵手紙や年賀状書きの支援、孫の結婚式に職員が同行し参列するなど支援している。馴染みの美容室や墓参りは家族の協力を得ており、馴染みの関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操・レク、皆さん楽しめるように工夫したり、共同作業や日中の場面においても、リビングやソファでお話しをしたり、手伝いあったりされています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されている方の面会に行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族の要望・本人さんの意向を大切に支援をしております	職員は、居室などでの1対1の場面で利用者の会話や何気なく呟いた一言から思いを汲み取っている。発語困難の利用者は表情や動作から推察している。不穏の利用者の原因と対策を話し合い、寄り添う支援を行った結果、落ち着いた事例がある。利用者が喜ぶ時や好まない事を把握し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴は、入所時お聞きしております。好きな歌手・趣味を聞きサービスに取り入れることもあります。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ間で話し合い個々にあった運動・休養のサービスに努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族に要望を聞き3か月に一回、カンファレンスを行い現状意見を聞き介護計画作成をしております	利用開始時の介護計画は1ヶ月後に見直している。通常は長期6ヶ月短期3ヶ月で作成し、3ヶ月毎に見直している。毎月、全職員参加でケアカンファレンスし、家族の要望は面会時やモニタリング時に聞き取っている。又、状態に変化がある時はその都度見直している。ただし、支援記録に介護計画の反映は見られるが分かりづらい。	モニタリング時や職員の介護計画の意識付けのためにも、介護計画に沿った個別の支援記録をわかりやすくなるよう工夫に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月25日をカンファレンスの日と決め職員間で話し合いケアの見直しを行っています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診(内科の定期受診・リハビリ・眼科・皮膚科・耳鼻科)の支援をしております。又ご家族の結婚式へ連れて出かけたりにしております。病院も本人さんご家族さんの希望にてお連れしております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事には参加しております。又近隣のGHの交流や、小学校・中学校との交流も大切にしています地域のボランティアの方が慰問に来られ、演奏・又利用者様と一緒に炭坑節を踊ったりされました		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所の際提携している病院を説明しています。御家族・本人のかかりつけがあれば、そちらを優先しています	かかりつけ医を継続するか協力医に変更するか家族の意向に沿って支援している。家族が受診同行時は利用者の状況を文書化し主治医に伝え、支援記録を渡している。受診後は相互に連絡し、職員は介護日誌や連絡ノートで共有している。心療内科は2週間に1回往診がある。夜間急変時の対応を職員は理解している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化・気づきは常に提携病院の看護師に報告しております。又看護師の方から電話もいただいております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された方の面会に行き状況確認や看護師さんより情報提供していただいております。又夜間緊急退院の際も対応しております		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は、3週間以上にわたり入院した場合、医療行為が必要になった場合は退所となっておりますが長期入院にならなければホームで対応しております。長期になった場合も連携病院にて対応していただくようにしております	今年度、家族の意見を聞き取り、重度化した場合の指針を作成し、家族に説明して同意の署名を得ている。看取り介護は主治医と家族を交えて話し合い、受け入れ可能かを検討している。今年度2事例があり、主治医と家族の判断で病院への移行となったが、今後も取り組んでいく方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生の講習を毎年受けており、緊急時対応についても指導して頂いています、職員全員休日を利用し救命救急講習を受けカードを所持しており今年は、更新する年なので5月に計画しています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	避難訓練を年3回実施、日中・夜間の火災を想定し実施しております。又一か月に一度消防計画のもと防火管理者が職員への指導を実施しております	消防署立ち合いの火災避難訓練を年2回、内1回は夜間想定で実施している。又、救命救急の講習を1回実施している。自然災害時の避難訓練は津波警報時に実施し、備蓄や非常持ち出し品も整備されている。職員は避難場所を周知し、地域消防団や地域住民の協力を取り付けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様1人1人の従来の生活習慣を大事にしている、誇りを尊重する事により、利用者様の方が自分らしく生活できるような対応や声掛けを心がけています	利用者はさん付けで呼び、居室へ入る時はノックし、排泄失敗時は離れたトイレへ誘導するなど、尊厳やプライバシーを尊重した支援に努めている。職員は採用時に守秘義務の誓約書を提出し、個人情報の取り扱いは契約時に家族へ説明し、同意の署名を貰っている。又、書類関係の保管場所も適切である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の行動の制限をするのではなく側にいて様子を見守り、答えやすい言葉使いをし本人さんの意思を確かめる		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人ペースに合わせ生活しております		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出(受診も含め)、行事など身だしなみはそれに合った着衣を用意する		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、切る。できない方もその様子を見る事で作業に参加できている。お茶の葉詰めなどして下さる。食事後の掃除も職員と一緒にされる	アレルギーや嗜好を把握し、調理専門の職員が献立を作成している。利用者は野菜の皮むきや食後の片づけなど出来ることを手伝っている。弁当や誕生日のケーキ、おやつなど手作りを基本に利用者と一緒に作っている。毎月の外食や外出先で出前を取るなど利用者の要望に応じている。ウッドデッキでお茶会など楽しむ支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量の一日の目安の表を用い水分摂取に心がけております。食事量の少ない方には、医師の指示にてエンシュアにて栄養摂取しております		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人さんが出来る人だと見守り、出来るところまでは、御自分でその後は職員が介助しケアしております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導を定期的に行っております。(排泄チェック表を確認し誘導)なるべく布パンツ使用を心がけております	職員は排泄チェック表を用い、排泄パターンを把握し共有している。自立支援を理解し、拒否者にも時間を調整して言葉掛けを工夫し支援を行っている。退院後、布パンツとパッドの利用者が布パンツのみの利用に改善した事例がある。失敗のない排泄を職員と利用者が共に喜び、できる限り布パンツでの生活を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを把握し、医師と相談し、水分補給、服薬などで調整しています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は決まっておりますが、本人さん希望により一人で入浴される方、最後にゆっくり入りたい方、利用者様の意見を取り入れ施行しております	入浴は週3回を基本としているが、希望に応じて支援している。車椅子の利用者も湯船に浸かり、同性介助も対応している。入浴拒否の時は時間や職員を変え、誘導している。好みのシャンプーや柚子湯や菖蒲湯など、利用者が入浴をゆっくり楽しめるよう支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間十分な睡眠が確保できなかった方、就寝時間が遅い方は、日中横になって頂き休息時間を取るよう心がけております		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護日誌にお薬リストをはさみ目を通すようにしています。日誌や連絡ノート、申し送りなどで把握できるようにしております		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホールのはき掃除、拭き掃除洗濯物たたみ、紙での作品作り、コーヒーを飲んだり、散歩に行かれたりとされている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・買い物に行っています。外出行事では、御家族の参加もあります。ペーロンの時は、地域の方が、席を作ってください交流しております	季節の花見や地域の行事、外食や陶芸教室など毎月のように車椅子の利用者も一緒に外出している。天気の良い日は近くの公園や事業所近辺の散歩に出掛けたり、買い物に行ったり、ウッドデッキでお茶を楽しんでいる。家族の協力も得ながら、利用者の日常的な外出を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出やドライブなどおこづかいを持っていきご本人さんの好きな物を選んでいただいております。又支払いも一緒にしております		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取りつぎや、希望時や定期的に電話をかけお話ししていただいております。書かれた手紙を預かり職員がポストに入れます。年賀状も出していただいております		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓より外の景色を楽しむ方が多くなったのでそのスペースを確保しています	ウッドデッキに繋がるリビングは、採光も良く利用者が寛げるようテーブルやソファを配している。壁には利用者の作品や行事の写真を飾り、季節の花が活かされている。リビングは毎食後掃除し、トイレは1日数回職員と利用者で掃除している。温度・湿度はチェック表で管理し、居心地良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関の椅子に座り自分の時間を静かにとっている方がいらっしゃるので見守りしたり話をしすごしています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や利用者様が描いた絵を貼ったり、その方らしいお部屋にしています。絵の他にパッチワーク作品などあります	畳敷きの居室はテレビや筆筒、仏壇など馴染みの物が持ち込まれ、絵画や家族の写真や職員手作りのカレンダーなどを飾っている。週1回のシーツ交換や毎朝の掃除は利用者も手伝い、温度湿度管理表を用い、落ち着いて過ごせるよう支援している。ただし、日中使用しないポータブルトイレ等の配慮が不足している。	不穏な利用者の状況もあるが、心地よい居室の設えとして、使用しない時のポータブルトイレや尿瓶、パッド類の収納に工夫を期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ。自室への表示他の方への入室防止の為名前表示を工夫している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270103437		
法人名	(有)なぎさ		
事業所名	グループホームなぎさ 2F		
所在地	長崎市かき道6丁目3-5		
自己評価作成日	平成27年2月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々癒しの心で接しております。ウッドデッキがあり、過ごしやすい季節の際はお茶をしたりひなたぼっこをしたりのんびり過ごしております。又リビングにも入居様が揃って過ごすことがほとんどです。入居者様のペースに合わせ毎日を楽しみ過ごしております。昇降運動・立位運動など個人にあった運動をし下肢筋力低下を防いでおります。無理がないよう楽しくできる運動や生活リハビリを取り入れております。 外食では、利用者様のご希望を聞きお店を選んでおります。空調管理も各居室気配りをしております。 地域行事には、参加を心掛け触れ合う場作りを支援しています。 最近では希望にて陶芸教室に数名月1回通っております。毎月1回の気功教室は全員参加しております

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は「いやし」理念と経営方針は毎月2回、職員会議の際職員全員で読み上げ常に頭に置き実践に繋げています		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、ガス祭り、ペーロン大会のご利用者様の参加(ペーロン大会は招待されたの見学) 毎年、小学生が訪問に来てくれます。中学生より車いすを毎年寄贈		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の感謝祭、ガス祭りにてなぎさコーナーを設け、介護相談やホームの暮らしの様子などをお伝えしています。介護用品の説明などもしています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	プロジェクターにてのご利用者様の写真にて様子を伝えたり、ビデオにてお伝えしています。ご家族の意見をお聞きし制服に名前をつける事、月1回メッセージカードにて様子をお伝えしています		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にてすこやか支援課の方に参加していただきおりサービスの取組など見ていただいております		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行っておりません。日頃より身体拘束のないケアを心がけております。又御家族からの要望もありましたが、市役所の方へ相談し結果報告し拘束のない方向へ納得していただきました		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議にて話し合いの機会を設けたり、外部の研修にも行きます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、知識を増し、地域の人・利用者様御家族へのアドバイスをしております		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定・変更があればその都度説明し理解してもらう		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回運営推進会議を開き外部者の意見家族からの意見交換ができる		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回の職員会議よりの意見交換を大切にしている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に数回職員会議にて、外部より講師を招き勉強会を行ったり、職員一人一人にあった研修に日勤扱いにし、行く機会を設けております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に数回職員会議にて、外部より講師を招き勉強会を行ったり、職員一人一人にあった研修に日勤扱いにし、行く機会を設けております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣のグループホームで地区会を開催したり、、又同業者同士の行事に招待したり参加したりと交流を図っております。現在4施設でのご利用者・職員の交流をしております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に事前に面接し、御本人さんに要望を聞いたり、伝える事が難しい方は何をしたいのか考え、昔の情報のなどを御家族に聞きサービスに活かしています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望を聞くように心がけております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	リハビリをしていただきたいとの要望がある方は、病院にてのリハビリを行っております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に洗濯ものを干したり、畳んだり、又入浴準備、シーツ交換も職員と一緒にしております。利用者様がお茶の葉を詰めたり時におやつも一緒に作っております。なるべくご本人さんに役割をもっていただいています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームに足を運んでいただく機会を作る為に、日用品や衣類など必要な時は連絡し持ってきていただいています。行事の参加にも働きかけたり、外出時にも声をかけております。面会時は、様子をお伝えしています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人の面会に来られたり、手紙や年賀状など出す機会を作っております		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操・レク、皆さん楽しめるように工夫したり、共同作業や日中の場面においても、リビングやソファで話をしたり、手伝いあったりされています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されている方の面会に行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族の要望・本人さんの意向を大切に支援しております		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴は、入所時お聞きしております。好きな歌手・趣味を聞きサービスに取り入れることもあります。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ間で話し合い個々にあった運動・休養のサービスに努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族に要望を聞き3か月に一回、カンファレンスを行い現意見聞き介護計画作成をしております		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月25日をカンファレンスの日と決め職員間で話し合いケアの見直しを行っています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診(内科の定期受診・リハビリ・眼科・皮膚科・耳鼻科)の支援をしております。又ご家族の結婚式へ連れて出かけたたりしております。病院も本人さんご家族さんの希望にてお連れしております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事には参加しております。又近隣のGHの交流や、小学校・中学校との交流も大切にしています地域のボランティアの方が慰問に来られ、演奏・又利用者様と一緒に炭坑節を踊ったりされました		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所の際提携している病院を説明しています。御家族・本人のかかりつけがあれば、そちらを優先している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化・気づきは常に提携病院の看護師に報告しております。又看護師の方から電話もいただいております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された方の面会に行き状況確認や看護師さんより情報提供していただいております。又夜間緊急退院の際も対応しております		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は、3週間以上にわたり入院した場合、医療行為が必要になった場合は退所となっておりますが長期入院にならなければホームで対応しております。長期になった場合も連携病院にて対応していただくようにしております		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生の講習を毎年受けており、緊急時対応についても指導して頂いています、職員全員休日を利用し救命救急講習を受けカードを所持しており今年は、更新する年なので5月に計画しています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	避難訓練を年3回実施、日中・夜間の火災を想定し実施しております。又一か月に一度消防計画のもと防火管理者が職員への指導を実施しております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	男性利用者様は、特にこだわり人格がしっかりされているので、言葉使いをより慎重にしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の行動の制限をするのではなく側にいて様子を見守り、答えやすい言葉使いをし本人さんの意思を確かめる		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人ペースに合わせて生活しております		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪もご家族が美容室へ連れて行ったり、ホームでの散髪も行っています。化粧水をつけたり、本人さんの希望に沿るようにしています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜切り・茶碗洗いを職員と一緒にされたり秋には皆で干し柿作りそれぞれできる事を担当し作業をする。誕生日会には、2Fの利用者様がケーキ作り担当でそれぞれ分担し作っている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量の少ない方への声掛けや、導尿されている方の水分量チェック、個人に合わせた工夫をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人さんが出来る人だと見守り、出来るところまでは、御自分でその後は職員が介助しケアしております。状態に応じて歯科受診しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導を定期的に行っております。(排泄チェック表を確認し誘導)なるべく布パンツ使用を心がけています		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを把握し、医師と相談し、水分補給、服薬などで調整しています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は決まっておりますが、本人さん希望により一人で入浴される方、最後にゆっくり入りたい方、利用者様の意見を取り入れ施行しております		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間十分な睡眠が確保できなかった方、就寝時間が遅い方は、日中横になって頂き休息時間を取るよう心がけております		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護日誌にお薬リストをはさみ目を通すようにしています。日誌や連絡ノート、申し送りなどで把握できるようにしております		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いなど役割を持っていただいたり、月1回の陶芸教室、ドライブにしております。陶芸教室はご要望の利用者様や、外出好きな方も陶芸はしなくても連れて行きます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・買い物に行っています。外出行事では、御家族の参加もあります。ペーロンの時は、地域の方が、席を作ってください交流しております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出やドライブなどおこづかいを持っていきご本人さんの好きな物を選んでいただいております。又支払いも一緒にしております		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取りつきや、希望時や定期的に電話をかけお話ししていただいております。書かれた手紙を預かり職員がポストに入れます。年賀状も出していただいております。以前からのお友達とも手紙にて交流している方もいます		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	電気たカーテンで光の調節を行ったり、大きな音は立てないよう配慮しております。温度は細目にご本人さんに尋ねたり、夜間は温湿度のチェックをしています。カレンダーや飾り物で季節感を出しております		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル座席の工夫やソファで話をしたり、歌を歌ったり、ゆっくりした空間作りをしております。暖かくなるとウッドデッキにてお茶したりとゆっくりすごしています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自宅から持ってこられた家具・仏壇を置いている方もいらっしゃいます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	てすりがあります。廊下のですりにて運動を実施している利用者様がいらっしゃいます。トイレ・風呂の場所がわかりやすいように大きく表示しておりトイレは便所とかいております		